

2 - 12 - 2 嘉念坊善俊上人畧伝

高山別院照蓮寺の開基嘉念坊善俊上人は後鳥羽天皇第 12 の皇子で承久 3 年 (1221) 御年 8 歳のとき園城寺に入って僧となり道伊と号した。寛喜 3 年 (1231) 関東から上洛中の親鸞聖人に箱根で逢い、本願他力の念仏の奥儀を聞いてその弟子となり、嘉念坊善俊の名を賜わった。その後祖師聖人に常隋し研鑽怠ることなくいよいよ利他真実の義をきわめた。師の命を受け辺地の群萌教化の旅にたち、都から北陸に向かう途美濃白鳥に暫く逗留したがそのとき上人に帰依するもの数知れず北濃一帯に真宗がひろまった。

宝治年間 (1247~49) はじめて飛騨国に足を踏み入れ辺地の教化のため己が住居を一カ所に定めることはせず、白川郷の深い山あいの村々をたずね歩いて強化一日としてやすむことがなかった。弘安 5 年 (1282) 3 月 3 日 69 歳没年までおよそ 35 年間 ひたすらに念仏往生の教えを説き伝えて〇むことを知らなかった。その真摯な教化はこの地方の人びとに深い感銘を与え、白川郷一帯はもとより近郷近在の老若男女の商人に帰依する者其の数を知らず。当時これを白川善俊門徒と呼び白川郷中野照蓮寺を中心として一大宗教団を形成した。

照蓮寺は天正 16 年 (1588) 高山城主金森長近公によって高山の地に移されたが、以来真宗は飛騨一円にひろがりいわゆる真宗王国を実現するにいたった。

高山別院は飛騨真宗発祥 7 百年と飛騨御坊造立 4 百年を記念して、同境内に嘉念坊善俊上人の碑を建立し、ながく上人の遺徳を顕彰し、かつわれらの父祖によって伝統された真宗念仏の信心を相続し、同朋社会の顕現に一段の精進を期せんとするものである。建碑に寄せられた門信徒の芳名録は、百年後の人びとへのメッセージとともにタイムカプセルに収納し建碑の地に遺するものである。

岩井正尾 謹書

昭和 60 年 11 月 2 日 高山別院照蓮寺

説明板より